



奈良美智《長い長い夜》1995年

セザンヌからウォーホル、草間彌生、奈良美智まで

国立国際美術館
コレクション

現代 アート の 100年

2022

令和4年度独立行政法人国立美術館巡回展

4/2 SAT → 5/29 SUN

【休館日】月曜日（5月2日は閉館） 【開館時間】9:00～17:00

（金曜日は20:00まで開館） ※入場は開館の30分前まで ※4月2日は10:00開場

【入館料】一般1,400円／高・大学生1,000円／小・中学生700円

◎会期中、本展チケットのご提示（半券可）により、100円で繪景園に入園できます

※前売り・20名以上の団体は当日料金より200円引き ※学生券をご購入にて入場の際は、学生証

のご提示をお願いします ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び障害病者

手帳の所持者と介助者（1名まで）の当日料金は半額です。手帳をご提示ください

◎前売券販売所：広島県立美術館、セブンチケット（セブンコード：093-024）、

ローソンチケット（Lコード：61416）、チケットぴあ（Pコード：685-953）、広島市・

呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウン広島、中国新聞社讀者

広島部、中国新聞各販売所（取り寄せ）などで販売しています

ワンコイン
100円
繪景園

【主催】広島県（広島県立美術館）、国立国際美術館、広島ホームテレビ、イズミテック、

中国新聞社 【後援】中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FM

チャッピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMはつかい576.1MHz、

FM東広島89.7MHz 【協賛】大田園管

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館情報等に変更の生じる場合がございます。

最新情報は広島県立美術館（電話・HP・SNS）まで <https://www.hpam.jp/>

 **広島県立美術館**
Hiroshima Prefectural Art Museum

まもなく開幕！



公式インスタグラム

【開催趣旨】

20世紀初頭、美術の世界は大きく変容しました。常識を覆す作品が次々と現れ、美術に対する見方・価値観は大きく揺らぎます。

本展覧会は、20世紀の絵画に多大な影響を与えたポール・セザンヌや、現代美術の父とも呼ばれるマルセル・デュシャンら巨匠に始まり、ポップ・アートの旗手アンディ・ウォーホル、日本を代表する現代作家である草間彌生や森村泰昌、奈良美智まで、国立国際美術館が収蔵する国内外の作家たちの名品約70点で今日までの美術の動向を辿ります。「現代アートが大好き」なあなたも「現代アートって何？」というあなたも、刺激的で心地よい、100年の美術を巡る旅に出かけてみませんか。



奈良美智《長い長い長い夜》1995年

【展覧会の構成】

第1章 近代から現代へー20世紀美術のはじまり

本章では主に20世紀前半に活躍した作家たちを紹介します。「近代絵画の父」と呼ばれるポール・セザンヌは「すべての自然は球、円筒、円錐に基づいて肉付けされている」と考え、対象を幾何学的に捉えました。その手法はかの有名なパブロ・ピカソのキュビズムに継承され、抽象美術へと行き着きます。

また、戦後美術に与えたマルセル・デュシャンの影響は計り知れません。《L.H.O.O.Q.》や《トランクのなかの箱》といった作品は、女性/男性、本物/偽物など、既成の二項対立を軽々と覆しました。デュシャン以後、伝統的な西洋美術の価値観は大きく変わったといえるでしょう。

ポール・セザンヌ
《宴の準備》1890年頃



「近代絵画の父」と称えられるポール・セザンヌは、1839年にフランス南部、エクス＝アン＝プロヴァンスに生まれた。「自然を円筒、球、円錐によって扱う」というセザンヌの言葉は、パブロ・ピカソらキュビズムの画家たちに大きな影響を与え、絵画の幾何学的抽象化への道筋を拓いた。本作では、しばしばセザンヌが用いたピラミッド型の構図が取り入れられており、画面中央へと視線を誘導させる。塗り残しが多く判別し難い点はあるが、線の表現ではなく色彩によって形象を捉えようとした制作過程を伺える。絵画においては「眼と頭脳が助け合わなくてはならない」と彼は述べたが、描くという行為を追求し続けたその姿勢を本作には見ることができる。



ヴァシリー・カンディンスキー
《絵の中の絵》1929年

カンディンスキーは1866年、ロシア、モスクワで生まれる。モネの《積み藁》連作に衝撃を受けて画家を志し、ドイツのミュンヘンに渡り絵画を学ぶ。同地で1911年に表現主義のグループ「青騎士」を立ち上げ、純粋な色彩と形態で画面を構成した作品群により、今日、抽象絵画の先駆者として位置づけられている。本作に見られる「画中国画」というテーマは、西洋絵画の伝統の中で繰り返し描かれてきた。カンディンスキーはここで、彼独自の抽象画の手法で同主題の刷新を試みている。しかし本作には、右下に反復される船を漕ぐ人のような形態など、再現的な要素も垣間見え、遊び心を感じさせる画面となっている。

第2章 前衛の波、イズムの連鎖—戦後美術の流れ

第二次世界大戦を境に、アートの中心はパリからニューヨークへと移ります。1950年代後半には、廃品や星条旗など身の素材やモチーフを用いて、日常と芸術の融合を試みる芸術家たちが登場し、20世紀前半のダダイズムの再来として「ネオ・ダダ」と呼ばれます。60年代に入ると、アンディ・ウォーホルを筆頭に、マスメディアの普及と大量消費社会を反映した「ポップ・アート」が一世を風靡する一方で、ドナルド・ジャドラ、作品を成立させる要素を極限まで切り詰めた「ミニマリズム」の傾向が高まります。それは概念を重視するコンセプチュアル・アートの発生を促し、ジョセフ・コッスースや河原温らの、文字や数字、日付などの記号を用いた作品が評価されます。

アンディ・ウォーホル《版画集『マリリン』》1967年

アンディ・ウォーホルはアメリカ、ピッツバーグに生まれ、カーネギー工科大学を卒業後、ニューヨークに出て、商業デザイナーとして活躍する。1960年にキャンベル・スープ缶など、アメリカの消費社会を象徴する商品を描き、アーティストとしてのキャリアを開始する。マリリン・モンローやエルビス・プレスリーら、著名人の肖像や全身像をシルクスクリーン技法によりキャンバスに転写した作品を発表し、ポップアートの旗手として高く評価された。本作は、ウォーホルが映画『ナイアガラ』（1953）の宣伝用ステルを素材にして、1962年8月に開始した『マリリン』シリーズの一つで、後にシルクスクリーン版画集として出版されたもの。

第3章 理性を越えて—1980年以後、時代を写す作家たち

ドナルド・ジャドラによるミニマル・アートや、ジョセフ・コッスースらによるコンセプチュアル・アートなどに見られる、感情を抑制した理知主義的な傾向は、1960年代から70年代にわたって繰り返され続けられました。また、写真や映像といったメディアが今日、我々にとって身近なものとなるにつれて、より「絵画」や「写真」といった既存の芸術分野を横断する自由な表現が現れる一方、こうしたジャンルを横断する動きは、絵画や彫刻の独自性を追求する流れにも繋がります。こうした新しい芸術表現は長い美術の伝統を乗り越えながら、現代に潜む問題を鋭く捉える作家たちによって現代アートは生み出されたといえるでしょう。

ヴォルフガング・ティルマンズ
《フライシュヴィマー（自由な泳ぎ手）24》2003年



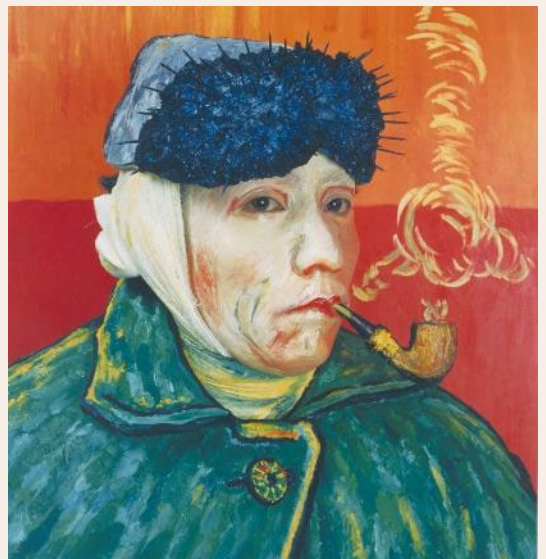
ヴォルフガング・ティルマンズは1968年、旧西ドイツの工業都市レムシャイトに生まれた。本作の題名となっている「フライシュヴィマー」というドイツ語は、「自由の中に泳ぎ出ていくこと」「自由に生きる人」を意味するもので、2003年から始まった抽象写真のシリーズである。白い背景には、幾筋もの赤い線がたゆたうように優しく流れている。本作は写真ではあるが、カメラを用いずに暗室内での光の操作によって印画紙に焼き付けたもので、通常言われる意味での被写体は本作には存在しない。ティルマンズは写真表現の可能性の追求を自身の責務だと述べているが、ここでも自由に既成の概念を取り払おうとしている。

第4章 日本発、アートの多様性—80年代から現在まで

1970年代後半の日本の現代美術は、概念的な傾向の作品が増えるなど、硬直化したムードに包まれていました。それに対し、絵画や彫刻の在り方を見直し、ジャンルの枠の中から「イメージの復権」を果たそうとする動きがおこります。90年代からゼロ年代にかけては、よりプライベートな視点から具象表現の可能性を広げるアーティストが現れます。奈良美智は時代の空気をまとったポップな感覚で、独特な風貌の少女像を描き、人気を博します。本章では、主に80年代から2000年代、そして現在にかけて活躍するアーティストたちによる、ヴァリエーション豊かな作品の数々をご紹介します。

森村泰昌《肖像（ゴッホ）》1985年

森村泰昌は大阪市に生まれ、1979年に京都市立芸術大学を卒業。1985年、「ラディカルな意志のスマイル」展（ギャラリー16）にて、ゴッホの《包帯をしてパイプをくわえた自画像》（1889）に自ら扮した本作を発表し、注目を集める。以降、名画の登場人物や、歴史上の人物に変身した自身を撮影し、写真作品として発表する。1988年には第43回ヴェネチア・ビエンナーレ・アペルトに、翌年にはアメリカで日本の現代美術を紹介する巡回展「アゲインスト・ネイチャー」に出品。自らの身体を作品に取り込み、一貫して「私」とは何かという普遍的な疑問を投げかけるとともに、美術史や歴史、性差やステレオタイプに鋭く切り込む独自の作風が国内外から高く評価される。



【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用は御遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。御了承ください。

※画像については提供が可能です。画像掲載の際には、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで御提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。

【関連イベント】

■記念講演会「現代美術をコレクションする」

日時:4月2日(土)13:30~15:00 [開場13:00]

講師:中井康之(国立国際美術館研究員)

会場:地階講堂

※聴講無料、要事前申込(TEL.082-221-6246)

■記念対談「縫い、拭い、描く—絵画について考える」 共催:広島県立美術館友の会

日時:4月9日(土)13:30~15:00 [開場13:00]

講師:伊藤存(アーティスト、本展出品者)、小西紀行(画家、本展出品者)

会場:地階講堂

※聴講無料、要事前申込(TEL.082-221-6246)

■記念講演会「作り手たちとの出会い—内藤礼、小林孝亘、須田悦弘、塩田千春」

日時:5月7日(土)13:30~15:00 [開場13:00]

講師:島敦彦(国立国際美術館館長)

会場:地階講堂

※聴講無料、要事前申込(TEL.082-221-6246)

■美術講座「ベッヒャーからティルマンズまで ドイツ現代写真の位相」

日時:5月22日(日)13:30~15:00 [開場13:00]

講師:山下寿水(当館主任学芸員)

会場:地階講堂

※聴講無料、要事前申込(TEL.082-221-6246)

■学芸員によるギャラリートーク

日時:4月15日(金)、4月29日(金)、5月13日(金)、5月27日(金)

各日:11:00~

会場:3階展示室

定員:15名 ※要入館券、要事前申込(TEL.082-221-6246)

■映画上映会

日時:4月24日(日)11:00~ 14:00~

会場:地階講堂

※上映前に解説あり※当日参加料金(映画サークル非会員):一般1,500円(ほか割引制度あり)

※詳細は広島映画サークル協議会(電話090-6846-5051)まで

【開催概要】

メインタイトル：国立国際美術館コレクション 現代アートの100年

会期：2022年4月2日(土)～5月29日(日) 休館日：月曜日(5月2日は開館)

開館時間：午前9時～午後5時(金曜日は午後8時まで)

※4月2日は10:00開館 ※入場は閉館の30分前まで

料金：一般 1,400円 高・大学生1,000円 小・中学生700円

※前売り・20名以上の団体は当日料金より200円引き

※学生券を購入・入場の際は学生証の提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。手帳を提示ください。

前売券販売所：広島県立美術館、セブンチケット(セブンコード:093-024)、ローソンチケット(Lコード:61416)、チケットぴあ(Pコード:685-953)、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウン広島、中国新聞社読者広報部などで販売しています。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館情報に変更の生じる場合がございます。最新情報は広島県立美術館(電話・HP・SNS)まで

【縮景園連携】

ワンコイン縮景園 本展入館券の提示により、100円で縮景園に入園いただけます。

開催クレジット

主催：広島県(広島県立美術館)、国立国際美術館、広島ホームテレビ、イズミテクノ、中国新聞社

後援：中国放送、広島テレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMIはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

協賛：大田鋼管、広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団

問い合わせ先：広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail：iroeuma2@gmail.com

担当：学芸課 山下寿水

広報担当：総務課 一色直香、弘津かおる

来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対策を行っています。御理解と御協力をお願いします。

- 次に該当するお客様は、入館を御遠慮ください。
 - ・発熱や、軽度であっても咳・のどの痛みなどの症状があるなど体調の悪い方
- 協力をお願いします
 - ・正しいマスクの着用、手指のアルコール消毒、咳エチケット
 - ・会話は控えめにし、特に大声での会話は行わないでください。
 - ・人と人との接触を避けるため、できるだけ1mの距離を空けてください。
 - ・来館者が多い場合は、入場制限を行う場合がございます。